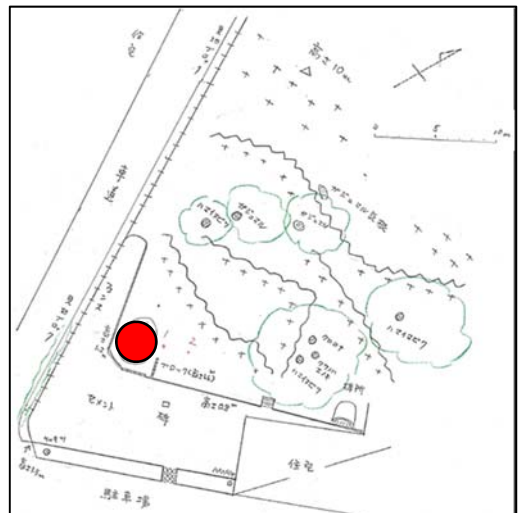


# ウスクガジュマル



認定番号 14

樹種名	アコウ	科名	クワ科	方言名	ウスクガジュマル	学名	<i>Ficus superba var. japonica</i>					
形状・寸法	樹高 11.6 m	胸高周囲 11.8 m	根本周囲 12.2 m	樹幹占有面積 385 m <sup>2</sup>								
	枝下高 3.7 m	枝張 東 12.2 m 西 12.3 m 南 13.5 m 北 6.3 m	最大樹冠幅 24.6 m									
通称	ウスクガジュマル		樹齢 130 年(推定)	所有者	1 国 2 県 3 市町村 ④ その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明 備考:平安座自治会所有							
所在地	北谷町浜川			立地場所	1 単木 ② 樹叢中 3 樹林中 4 その他							
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 ⑦ 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他				保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 ③ 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 6 名木 7 その他 8 なし						
周囲の状況	1 樹林 a 大面積山林 ⑥ 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ( )			気象条件 (最寄りのアメダスデータ)		月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
土地傾斜	1 平坦(0~5) ② 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:				平均気温(°C)	16.8	17.9	18.4	20.9	23.6	26.9	
土壌	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 (石灰岩上)			地点:那覇	降水量(mm)	36.5	55	51.5	36.5	66.5	117.5	
基岩・母材					平均風速	5.0	5.4	5.6	5.1	4.9	5.1	
地形	1 山地 ② 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪 窪 9 カルスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他			2014年	風向	NNW	N	SW	ESE	S	SSW	
土性	1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる ② 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない				月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
根元及び周囲の植生	草本 1 密生 ② 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 ③ なし			年	平均気温(°C)	29.3	28.7	28.8	25.4	22.6	17.6	
管理状況	1 柵 a 有 ⑥ 無 (有の場合の高さ m、材質( ) 柵内面積 ( m <sup>2</sup> ) 設置年 2 支柱 a 有 ⑥ 無 3 剪定 a 強 ⑥ 弱 c 無 ④ 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類 ) 5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類 ) 6 解説板 ① a 有 b 無 7 避雷針 a 有 ⑥ 無 8 定期的な草刈・掃除 ① a 有 b 無 9 その他				潮風の影響	降水量(mm)	212.0	70.5	36.5	252	30	34.5
				平均風速		6.3	4.6	4.2	6.7	5.1	5.7	
過去の治療歴と内容				周辺樹木との関係	風向	SE	SW	SSE	ENE	NNE	N	
					年	年平均気温	23.1 °C		最高気温	33.9 °C		
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 6 不明			周辺根元の状況	年降水量	2584.5 mm		最低気温	10.6 °C			
					1 なし 2 ややある 3 ある ④ やや強く受ける 5 強く受ける(特記)							
視認性	① 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由 )			1 土壌の固結がなくきわめて良好 ② 固結はあまりなく概ね良好 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし								
					1 影響なし ② 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている							
特記事項	1 動物生息 a 有 ⑥ 無 (有の場合動物の種類 ) 2 着生植物 ① a 有 b 無 (有の場合植物の種類 オオイタビ、ヒラミレモン ) 3 見学・参観者 a 有 ⑥ 無 (有の場合その数) 4 その他											

地上部の衰退度判定（認定番号14）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被書が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 2.82

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

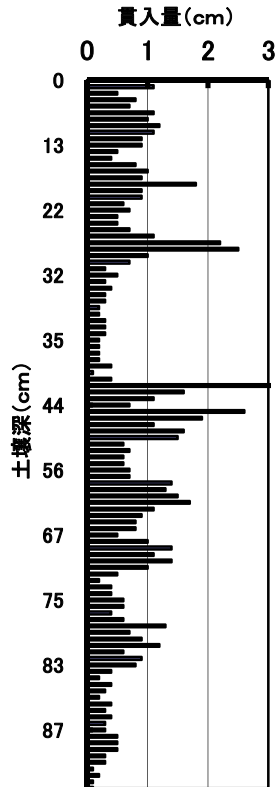
倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
	通行者・建物等との位置関係			○	
根返り		○			
幹折れ				○	
大枝折れ					○
中・小枝落下				○	
幹の傾斜の増大		○			
その他(支柱(鉄パイプ))				○	

土壤調査結果（認定番号 14）

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)
I	7.5YR4/6	0-15	強い粒状構造	埴壤土	8.1	1.2
II	7.5YR5/6	7-23	-	埴壤土		
III	7.5YR6/6	23-33	-	埴壤土		

土壤貫入量結果



部位	所見	対応
土壌	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島尻マージで土質は埴質。</li> <li>・pH:8.1、EC:1.2(dS/m)。</li> <li>・岩盤上に生育するため土層の厚さはバラバラで概ね 40～90cm。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し。</li> </ul>
根	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イチジクカミキリの被害が著しい。比較的古い根にも食害痕、脱出孔が見られる。</li> <li>・岩を覆う根は枯死している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幹の分岐点に裂けており、新たな枝が発生・成長したとしても支持できないため 6 本程度の支柱の設置は不可欠と考える。</li> </ul>
幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大枝の分岐部から折損。折損部はイチジクカミキリの食害痕が多数見られ、材の腐朽も著しい。</li> <li>・分岐部に白色のキノコ(未同定)が着生している。</li> <li>・樹皮に活力がなく、部分的に枯死している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・露出根、幹、枝のイチジクカミキリの防除は緊要と考える。</li> <li>・駆除は若い枝幹及び根を中心に行うのが望ましい。</li> </ul> <p>《現在考えられる駆除の方法》</p> <p>フラス部位の樹皮を剥いで穿入孔を確認し、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①カミキリ専用の殺虫剤を噴入する。</li> <li>②穿入孔から針金等で刺殺するか、木部を削り取り捕殺する。</li> <li>③産卵防止のため、カミキリ用殺虫剤を塗布する。</li> <li>④傷口はフラスを除去した後、殺菌剤入りの癒合剤を塗布する。</li> <li>⑤穿入痕から腐朽しやすいので殺虫後はフラスを除去し、殺菌剤入り癒合剤を塗布する。</li> </ol>
枝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風により折損。大部分が切除、撤去済み。</li> <li>・南側の大枝は衰退が著しく進行。</li> <li>・僅かに残る大枝にもイチジクカミキリの食害痕が見られ、樹皮に勢いが無い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・枝の発生を待つが、発生する枝は剪定が必要になると考える。</li> </ul>
葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大枝、中枝の殆どが切断されているため、着葉量が乏しく、かつ小型化している。</li> <li>・南側の大枝は衰退が著しく進行している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹勢回復のため、施肥を検討する。</li> </ul>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幹の付け根から大枝がほぼ水平方向に伸び、かつ基部が腐朽していたために折損したと推察される。</li> <li>・樹勢・樹形の回復は期待できないと思われる。</li> </ul>	

